

就活生に聞いた「リクルーターとの接触経験」

2016年9月発行

売手市場が加速するなか、優秀な学生の採用を巡り、各企業がしのぎを削る状況が続いている。企業は学生に、仕事内容について理解を深めてもらったり、人事以外の社員と直接話すことで社風をよく知ってもらったりするため、リクルーターの活用を進めている。

ディスコでは、今年就職活動を行った学生を対象に、リクルーターとの接触経験について、またリクルーターの印象や就職活動への影響度合い等を調査した。一部、直近3カ年のデータを比較して分析する。

《調査概要》

調査対象 : キャリタス就活2017 学生モニター
(2017年3月卒業予定の全国の大学4年生・大学院修士課程2年生)

調査時期 : 2016年9月1日～12日

調査方法 : インターネット調査法

回答者数 : 734人

	男子	女子	合計
文系	231	212	443
理系	187	104	291
合計	418	316	734

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

※2016年卒の調査結果は「日経就職ナビ2016 就職活動モニター調査」(2015年9月)より

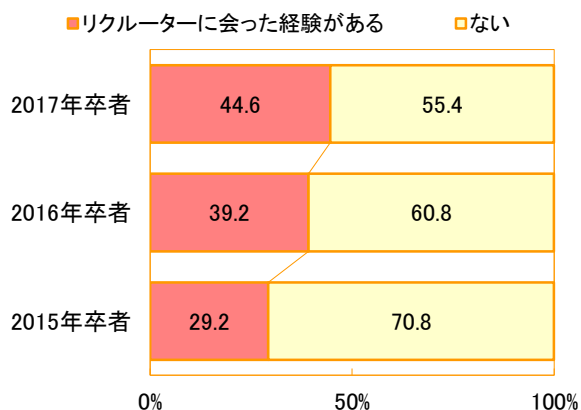
※2015年卒の調査結果は「日経就職ナビ2015 就職活動モニター調査」(2014年7月)より

[1] リクルーターとの接触の有無

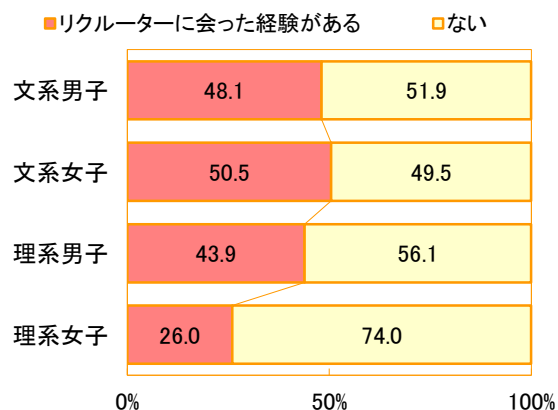
就職活動中にリクルーターとの面談経験があると回答した学生は4割を超えた(44.6%)。2015年卒者では29.2%であったが、翌2016年卒者は39.2%と年々増加しており、企業のリクルーターの活用が進んでいる様子が読み取れる。

文理男女別に見ると、リクルーターとの面談経験がある人の割合が最も高いのは文系女子で、過半数に上る(50.5%)。男子は、文系が5割弱(48.1%)、理系が4割強(43.9%)。一方、理系女子は26.0%と比較的低く、文系女子の半数程度にとどまった。

リクルーター面談の経験

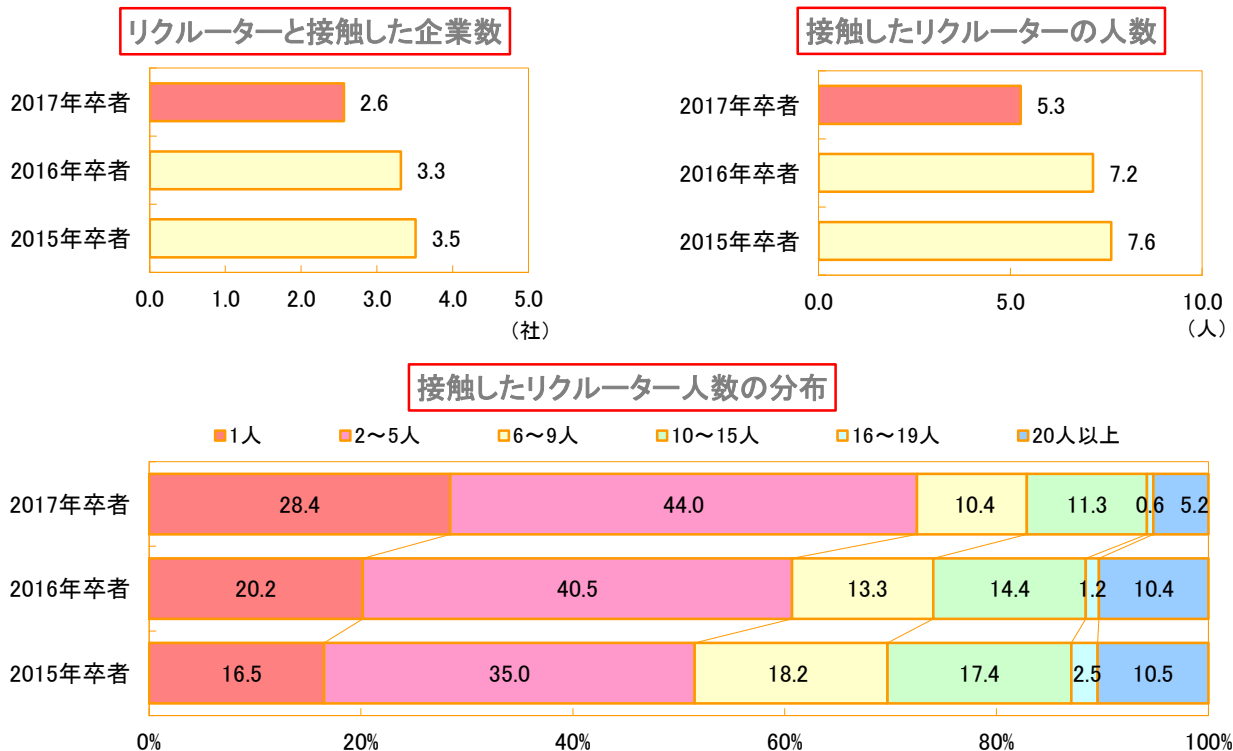


リクルーター面談の経験【文理男女別】



[2] 接触したリクルーターの数

リクルーターと接触した学生に、その人数や企業数を尋ねた。リクルーターと接触した企業数は一人あたり平均 2.6 社、人数の合計は 5.3 人で、どちらも 3 力年で減少傾向にある。人数の分布を見ると、「1 人」や「2~5 人」の割合が増加している。一人あたりのエントリー数の減少に伴い、接触したリクルーターの企業数や人数も減少したと考えられる。とりわけ昨年から今年にかけて大きく減少した背景には、就職活動の短期化の影響もあるだろう。



[3] リクルーターとの接触があった業界

リクルーターとの接触があった企業の業界をすべて選んでもらった。全体で最も多かったのは「銀行」(30.0%)、次いで「保険」(15.6%)で、どちらも前年と同順位。文理別に見ると、文系では「銀行」が4割近くに上る(39.9%)。理系では「自動車・輸送用機器」(13.8%)、「運輸・倉庫」(13.8%)、「素材・化学」(13.8%)が上位にきている。

リクルーターとの接触が多い業界(TOP10)

* 全 40 業界

(%)

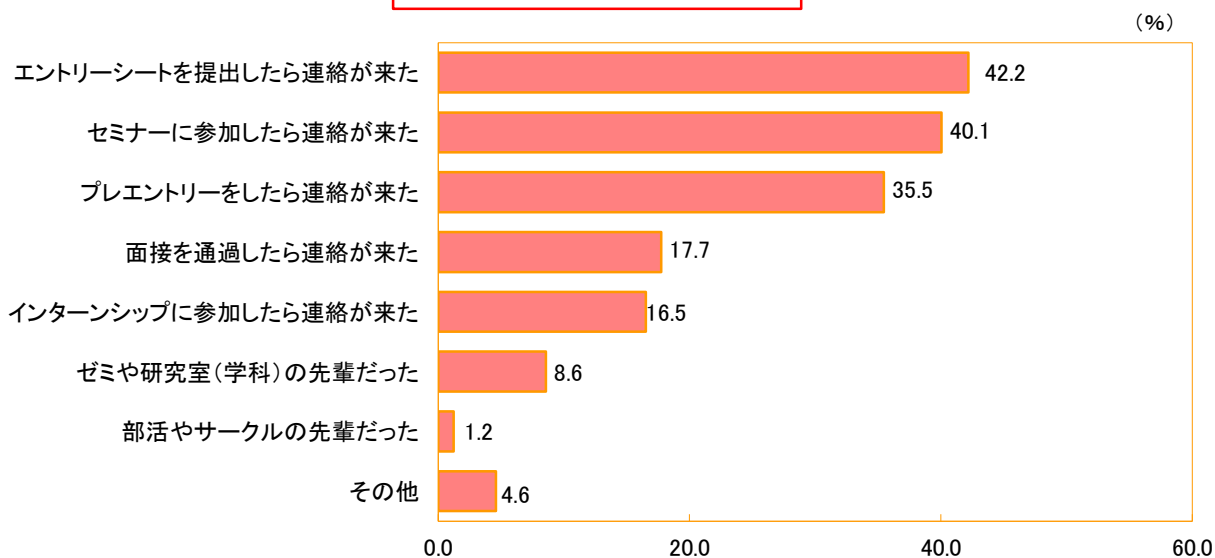
全 体			文 系			理 系		
1	銀行 ①	30.0	1	銀行 ①	39.9	1	自動車・輸送用機器 ①	13.8
2	保険 ②	15.6	2	保険 ②	21.6	1	運輸・倉庫 ③	13.8
3	エネルギー ⑧	11.0	3	エネルギー ⑦	12.8		素材・化学 ⑤	13.8
4	運輸・倉庫 ⑤	9.5	4	鉄鋼・非鉄・金属製品 ③	9.6	4	電子・電機 ②	10.1
5	自動車・輸送用機器 ③	9.2		証券・投信・投資顧問 ⑫	9.6		銀行 ④	10.1
	素材・化学 ⑦	9.2	6	建設・住宅・不動産 ⑧	8.3	6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑤	9.2
7	鉄鋼・非鉄・金属製品 ⑥	8.3	7	運輸・倉庫 ⑤	7.3	7	通信関連 ⑩	8.3
8	建設・住宅・不動産 ⑨	8.0		自動車・輸送用機器 ④	6.9		エネルギー ⑤	7.3
9	証券・投信・投資顧問 ⑬	7.6	8	素材・化学 ⑤	6.9	8	建設・住宅・不動産 ⑤	7.3
10	情報・インターネットサービス ⑭	7.0		情報・インターネットサービス ⑭	6.9		機械・プラントエンジニアリング ⑨	7.3
							情報・インターネットサービス ⑫	7.3

※○の中の数字は前年調査の順位

[4] リクルーターと接触したきっかけ

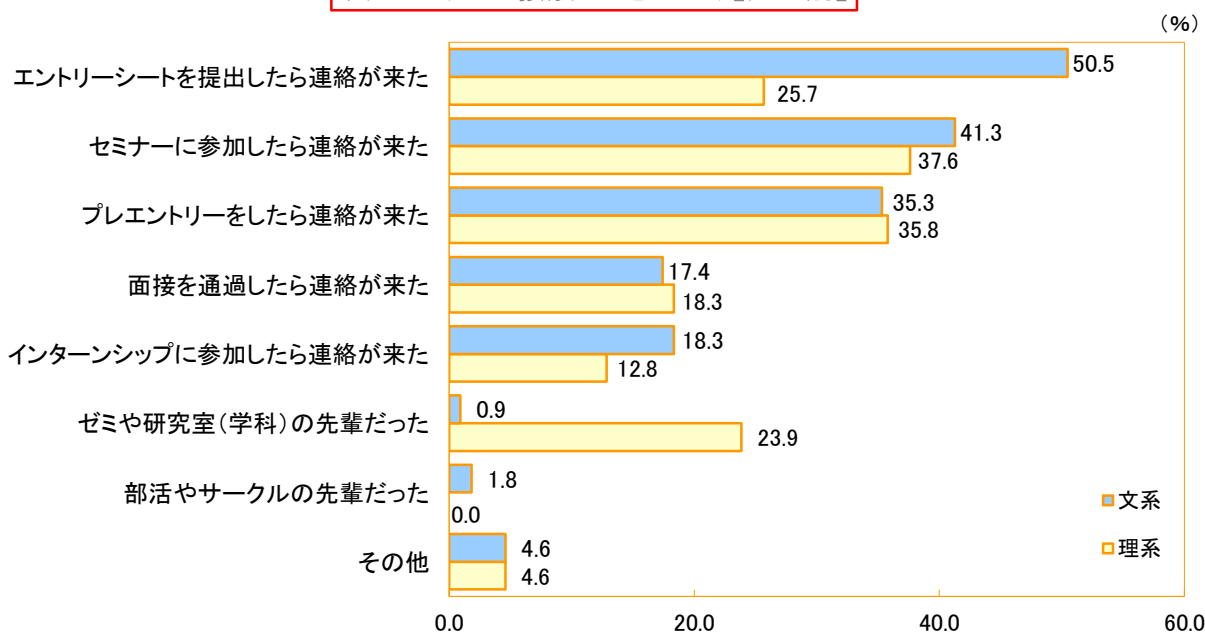
リクルーターと接触したきっかけを尋ねた。「エントリーシートを提出したら連絡が来た」(42.2%)が最も多く、「セミナーに参加したら連絡が来た」(40.1%)、「プレエントリーをしたら連絡が来た」(35.5%)と続いた。「ゼミや研究室(学科)の先輩だった」は8.6%、「部活やサークルの先輩だった」は1.2%と、就職活動前からの知り合いをきっかけとした接触は少数派であることがわかる。

リクルーターと接触したきっかけ



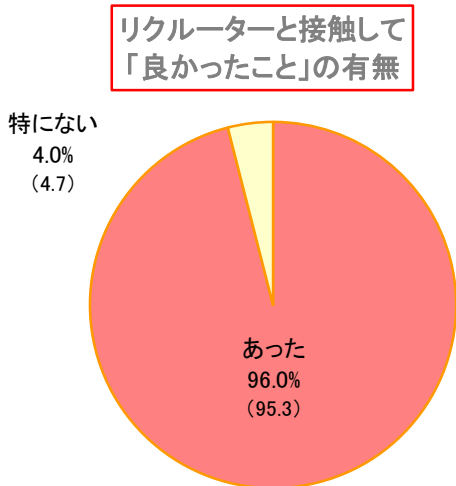
これを文理別に見てみると、文系は「エントリーシートを提出したら連絡が来た」が50.5%で最も多く、理系に比べて2倍近い。一方理系は「セミナーに参加したら連絡が来た」(37.6%)、「プレエントリーをしたら連絡が来た」(35.8%)の順だった。理系は、エントリーシート提出前の、セミナー参加やプレエントリーといった早い段階から連絡を受けているようだ。また、特に理系で目立つのは、「ゼミや研究室(学科)の先輩だった」が2割強(23.9%)にのぼり、研究室の繋がりの強さがうかがえる。

リクルーターと接触したきっかけ【文理別】

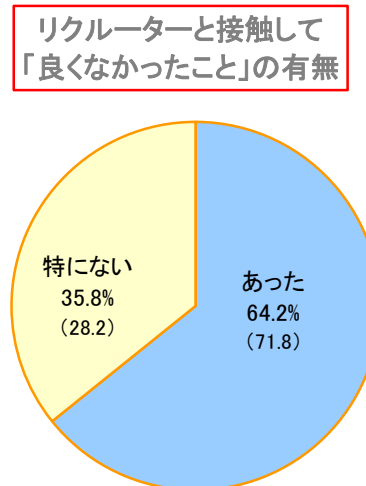


[5] リクルーターと接触して良かったこと／良くなかったこと

リクルーターと接触して良かったことがある学生は全体の96.0%と、大半が前向きに捉えていることがわかる。一方良くなかったことがある学生は7割を切り、前年度よりも減少した(71.8%→64.2%)。しかし、良い面と悪い面の両方を感じている学生は多いと言える。

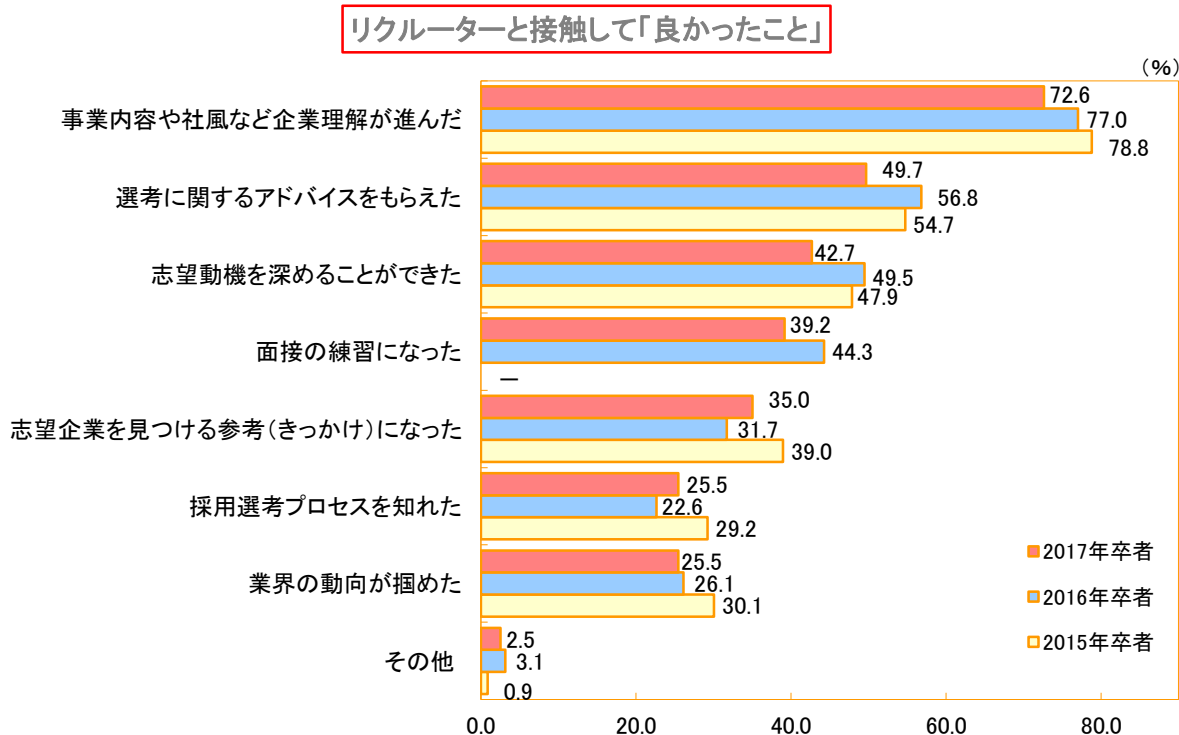


※ () 内は前年度の数値



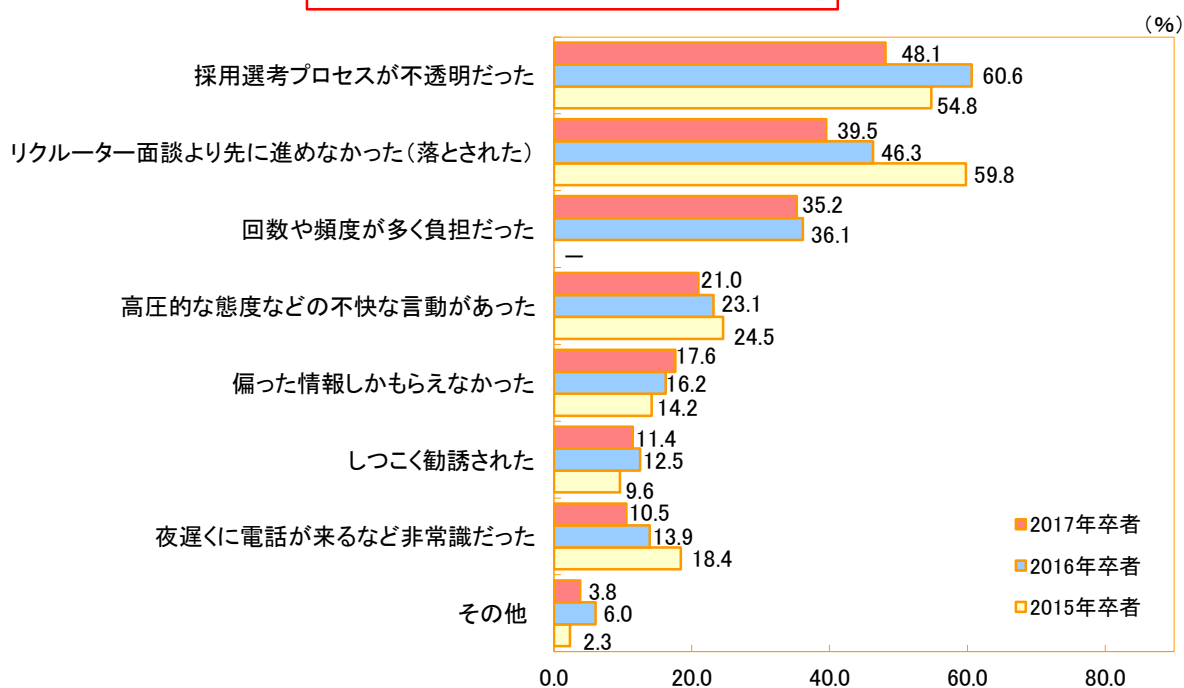
※ () 内は前年度の数値

接触して「良かったこと」について、あてはまるものをすべて選んでもらった。最も多かったのは「事業内容や社風など企業理解が進んだ」(72.6%)で、「選考に関するアドバイスをもらった」(49.7%)、「志望動機を深めることができた」(42.7%)が続いた。セミナーや会社説明会だけでは理解が不十分だった部分をリクルーターが説明することで、学生の企業への理解がより進んだと思われる。3カ年を通してみると、項目ごとの良かったと感じている人の割合が減少傾向にある。リクルーターの幅広い活用が進んだ結果、一人一人にじっくり対応する時間が少なくなっているのではないだろうか。



一方、リクレーターと接触して「良くなかった」ことについては、「採用選考プロセスが不透明だった」(48.1%)が最も多い結果となった。2番目に多かった「リクレーター面談より先に進めなかった」は、2015年卒者では6割近かったが(59.8%)、2017年卒者では4割弱(39.5%)まで大幅に減少している。本選考前のスクリーニング的要素が強かったリクレーターの役割が、学生の企業理解の促進や選考への動機付けといったものに広がってきていることを裏付ける。メンター的な側面も必要になっていると言える。

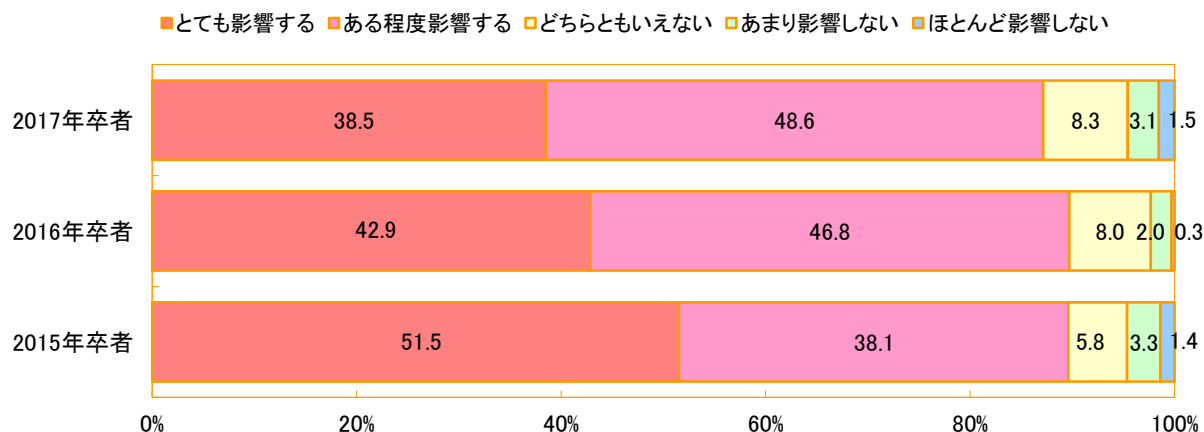
リクレーターと接触して「良くなかったこと」



[6] リクレーターの印象と志望度

リクレーターの印象が、その企業への志望度にどの程度影響するのか尋ねた。「志望度に影響がある」と回答した人は、「とても影響する」(38.5%)と「ある程度影響する」(48.6%)をあわせた9割弱(87.1%)だった。「志望度に影響がある」人は、3カ年とも9割弱で大きな変化はないが、その内「とても影響する」と回答した人は、2015年卒者から2017年卒者にかけて10ポイント以上減少している。売り手市場もあり、影響の受け方は弱まってきているようだ。

リクレーターの印象による志望度への影響



■リクルーター制度について思うこと

- 面接と違い、色々なことが聞けたので、企業理解には役立つ。選考の相談なども出来た点は良かった。 <理系女子>
- 人事の方とは違う先輩社員の方と接触できる機会をいただけることは非常によいことだと思う。素直な意見を聞けるし、質問しづらいことも質問できるので志望度を上げるためのよいツールだと考える。 <文系男子>
- ホームページや会社説明会では触れられていない内容を知ることができるため、どんどん活用すべき制度だと思う。 <理系男子>
- リクルーターとお会いすることでどのような雰囲気の方が働いているか知ることができるためよいと思う。 <文系女子>
- 選考に含まれているのかそうでないのかが不透明だった。 <理系男子>
- 何回リクルーター面接があるか聞かされていない上に、その後まったく何の連絡もなく落とされてしまったので、もっとプロセスを明確にして欲しい。 <文系女子>
- しつこく電話があるなど企業によっては志望度が下がる原因となった。 <文系女子>
- 役に立つこともあるかもしれないが、ただでさえ短い準備期間の中で複数回会わなくてはいいことが負担だった。 <文系女子>
- 会社の説明会が始まる前にリクルーターによる選考が始まるので、企業の理解が固まっておらず話しくかったです。 <理系男子>
- リクルーター制度がある企業で自分にリクルーターがつかなかったら採用される可能性が極端に減るのではないかと不安になった。 <文系男子>